

## 参考資料3

分類名〔野菜〕

## 無加温ハウスにおけるスナップエンドウの越冬二期どり栽培

宮城県農業・園芸総合研究所

## 1 取り上げた理由

スナップエンドウは比較的低温でも栽培しやすく、雨よけハウスを利用した冬から春の促成栽培では高単価野菜として注目され、近年は直売所等で販売されることも多くなっている。

そこで、無加温ハウスにおいてスナップエンドウを栽培し、秋冬季に収穫した後、べた掛け資材を用いて越冬させ、翌春から再度収穫する二期どり栽培を検討し、その収量性を確認したので参考資料とする。

## 2 参考資料

1) スナップエンドウを8月中旬に播種し、9月上旬に定植することで、無加温ハウスでも10月中旬から12月初旬まで秋冬季の収穫が可能である（図1、表1）。

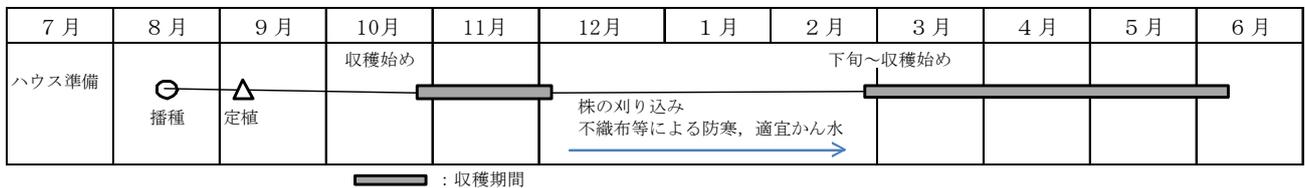


図1 宮城県におけるスナップエンドウ二期どり作型

- 2) 無加温ハウスで12月初旬まで収穫したスナップエンドウを地際部から25～30cm程度で刈り込み、パオパオ100等の被覆資材をべた掛けすることで越冬が可能となり、2月中旬から再び生育した株から、3月から6月中旬まで収穫することが可能である（図1、図2、表2）。
- 3) 無加温ハウスを利用したスナップエンドウの越冬二期どり栽培では、年内収量は株当たり150～220g程度。翌春からの収量は株当たり350～470g程度となり、全期の合計株あたり収量は520～620g程度となる（表1、表2）。

## 3 利活用の留意点

- 1) 農業・園芸総合研究所（名取市高館）内の鉄骨ハウスにおける試験より得られた成果である。
- 2) 耕種概要
  - a 施肥：N成分量で1.5kg/a
  - b 栽植様式：うね幅140cm，株間10～18cm，1穴1株1条定植とする。
  - c 栽植密度：a当たり400株～700株/a程度である。
  - d 支柱・誘引：生育にあわせて9月下旬までにイボ竹等の支柱を適宜設置する。支柱間に誘引ひもを展張しテープナー等で枝を固定しながら収穫を行う。刈り込み・越冬後の3月にも支柱・誘引を再度設置する。
  - e 刈り込み：12月上旬頃地際部から約25～30cm（地際部から5節程度）で上部を刈り込む。
  - f 被覆：刈り込み後はべた掛け資材で被覆し、翌春2月中旬に被覆を除去する。被覆中は冬期間であるが適宜かん水を行う。
- 2) 仙台市場におけるスナップエンドウの平均kg単価は858円（5～7月平均）で、a当たり粗収益は360,360円（700株600g収穫/aで算出）。物材費（ハウス償却費は除く）として種苗費、べた掛け資材、誘引イボ竹、出荷資材等で概ね70,000円程度である。
 

スナップエンドウの月別kg単価は3月1,113円（東京中央），4月1,237円（東京中央），5月1,200円（仙台市場），6月657円（仙台市場），7月717円（仙台市場）で4～7月の平均単価は952円である。10～12月の全農みやぎの取り扱い実績はない（単価：東京中央は3年間の平均単価）。

参考資料3 無加温ハウスにおけるスナップエンドウの越冬二季どり栽培

仙台市場は平成27年販売実績)。

3) エンドウ類は連作障害が早期に発生するので、計画的な作付け作物のローテーションを取り入れる。もしくは土壌消毒を徹底する。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸栽培部 電話022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間：

宮城から提案する新規園芸品目の生産技術の開発 平成25～平成27年度

2) 参考データ

表1 無加温ハウススナップエンドウ栽培の秋冬どりの株当たり年内収量

(平成26年)

供試品種名	10月		11月		12月		年内収量				
	可販莢		可販莢		可販莢		可販莢		奇形・くず莢		
	莢数 (個)	莢重 (g)	莢数 (個)	莢重 (g)	莢数 (個)	莢重 (g)	莢数 (個)	莢重 (g)	平均 1莢重 量(g)	莢数 (個)	莢重 (g)
グルメ	6	29	20	99	4	23	30	151	5.0	2.3	6.3
ニムラ	8	44	22	129	9	48	39	221	5.6	2.6	5.2
幸姫	4	21	15	73	11	58	30	151	5.0	5.1	8.8

注)可販莢は莢長60mm以上、子実の充実した莢,奇形・くず莢は子実の充実しない莢及び明らかな奇形,病莢とした。

表2 ベた掛け資材利用による刈り込み越冬が翌春の収量に及ぼす影響と二季どり栽培における株あたり収量

(平成27年)

供試品種名	3月		4月		5月		6月		春収量				全期収量(10~12月+3~6月)					
	可販莢		可販莢		可販莢		可販莢		可販莢		奇形・くず莢		可販莢		奇形・くず莢			
	莢数 (個)	莢重 量(g)	平均1 莢重 量(g)	莢数 (個)	莢重 量(g)	莢数 (個)	莢重 量(g)	平均 1莢重 量(g)	莢数 (個)	莢重 量(g)								
グルメ	2	13	29	123	44	177	14	58	89	371	4.1	8.0	18.1	120	522	4.4	11.3	24.4
ニムラ	4	24	21	109	37	175	8	42	70	350	5.0	10.6	29.3	109	571	5.3	13.2	34.5
幸姫	3	20	34	188	46	218	9	46	93	472	5.1	15.0	34.0	123	623	5.1	20.1	42.8

注)可販莢は莢長60mm以上、子実の充実した莢。奇形・くず莢は子実の充実しない莢及び明らかな奇形,病莢とした。

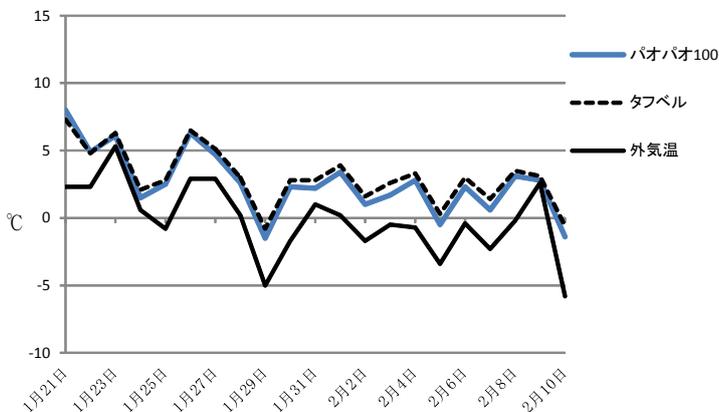


図2 外気温とべた掛け資材使用時の資材内部の厳冬期の温度推移(日平均) (平成27年)

- 3) 発表論文等 なし
  - a 関連する普及に移す技術 なし
  - b その他
- 東北農業研究成果情報
- 4) 共同研究機関 なし